

令和 6 年度 社会福祉法人布引会 玉園ハイム 事業報告

令和 6 年度は、物価高騰や働き手不足等の影響で社会的に不安定な状態が続いておりました。介護業界に於きましても同様に、布引会にとっても物品購入価格や委託費の上昇など経営的には厳しい一年となりました。

当法人が運営する特別養護老人ホーム・短期入所生活介護に於いては、ユニット型で個室 10 床のユニットが 6 単位存在し、構造上、介護従事者の労働負荷が高く、相当数の介護士が必要です。令和 6 年度は非常勤勤務の介護士の増員による人件費が増加しました。入居者に於いては、疾病の悪化による短期入院利用者が増え、短期入所生活介護も継続した利用者は居られますが、入所者数は若干減少しました。今後、経営安定化を図るためには、空床数を出来るだけ減らし、ショート入所者の増員に尽くす必要があります。また、医療依存度の高い入所希望待機者が増加しており、当法人としての対応方針も再検討する必要があります。

新しい取り組みとしては、令和 6 年度より新設された「協力医療機関連携加算」を算定する為、協力病院である東近江敬愛病院との定期的な WEB 会議を実施・開催致しました。今後も利用者の体調不良時の診療依頼・医療依存度の高い入所者受入のバックアップ等、協力・連携をお願いし法人運営を行って参りたいと考えております。

【介護従事者の人員確保と定着による運営の安定】

介護職員確保の為、常勤介護士・夜勤専従やパート介護士と幅広い募集をしておりますが、なかなか採用にまで至らぬ状況にあります。特に夜間においては、1名の介護士が2つのユニットを担当しており、業務量的にも大変で、本来夜勤もできる正職員の介護士の採用が必要ですが、応募者が少なく正職員の介護士の夜勤回数を減らせないことが課題です。今後は夜専派遣職員の増員や SNS 等の活用で人材確保に充てたいと考えております。

人員の定着については、早期退職者も居られ、今後は人材育成の為の研修する機会を増やしたり、職員間のコミュニケーション向上の為、ユニット間での職員異動を行い、働きやすい職場創りの構築に努めたいと考えます。

【入居者・利用者の体調の安定と生活の質向上に向けた取り組み】

入居者・利用者の体調安定への取り組みとしては、医務部看護職員と嘱託医との連携強化を図りました。しかしながら体調を崩されるご入居者も多く、入院・退居される方も居られ、経営に影響を与えました。今後は、入院先の医療機関との情報交換を密にし、できる限り空床を減らすべく検討致します。特に東近江敬愛病院には、相互の理解と協調の上、両法人の良好な運営が継続できる様に連携強化をお願いしたいと考えます。

家族との関わる機会の強化については、面会方法を自由面会に切り替え、入居者家族とのつながりを断つことがないように取り組みました。入居者・御家族には高評価を得ていると考えております。

看取り介護を推進する為、嘱託医・協力病院と連携し、施設での看取り介護に取り組みました。しかしながら夜間の対応等、介護施設での看取りの課題は散見され、今後も更なる検討が必要と思われます。

施設申込者を増やし、早期入居に繋がるように居宅介護支援事業所、老人保健施設等へ働きかけましたが、サービス付き高齢者住宅・介護老人保健施設などの増加により、入居需要の減少が見られました。今後も申込者を増やすための施策については継続して検討して参ります。

機器の入れ替えについては、ベッド・車いす等故障が目立ち、入居者の生活に支障がでる場面が見られた為、必要に応じて適時入替を行いました。現在使用中の介護ソフトについては現場では使用しておらず、今後検討が必要と思われます。

【業務継続に向けた計画の立案実施と地域との連携を強める取り組み】

事業継続計画に沿った必要物資を確保し、有事においても事業が継続できるよう訓練を実施しました。今後も年2回の訓練の実施を課されております。東近江敬愛病院が本年度から立ち上げた「災害対策委員会」の訓練にも、当法人の職

員が参加させて頂ければと考えております。

地域支え合い協議会と協働し福祉車両の貸出を行い、施設の地域交流室を地域住民に開放し、地域と施設が連携できるように計画しておりましたが未実施となっております。

施設長は、玉園ハイムが立地する玉緒地区の「住民福祉推進委員」として、地区の会議等への出席を今後予定しております。

災害有事の際には、地域の皆様からの援助が不可欠ですので、今後も関係構築に向けて取組みたいと考えております。

以上が、令和6年度社会福祉法人布引会玉園ハイムの事業報告となります。